創刊号
平成25年7月15日発行

防災だより

関ヶ谷自治会
防災ボランティアグループ発行

関ヶ谷自治会ホームページではカラーでご覧になれます

発刊にあたって

防災ボランティアグループ（以下防災ＶＧ）が発足して、はや２年７ヶ月が経ちました。その間、未曾有の大災害をもたらした東日本大地震等がありました。また、最近では南海トラフ巨大地震に関する最終報告書が出されました。甚大な被害が広域におよぶため、公的支援は限界があり、自助および地域の共助の必要性が強調されています。

こうした中　我々防災ＶＧは安否確認訓練を数回実施したり、総会を開催し情報の共有を図ってきましたが、　何分定期的な日常活動が無いためか、情報共有が不足しています。例えば

・現在防災ＶＧどう動いているのか。
・災害時　安否確認の次は何をするのか（声掛けや応急手当・後片付け等）。
・防災情報が氾濫しているが、何が重要な内容か、良く把握出来ていない
・会員同士の意見交換の場が無い。

これらの疑問点や皆様の声等を少しでも反映させるべく　『防災だより』を年４回発行することに致しました。

（代表：　小西義一）

防災ボランティアとは

災害時に安否確認を希望された方の安否を確認する事を基本として
災害時に地域の防災活動を行う事を目的とするボランティアの集まりです。
代表：小西　義一　副代表：徳岡　正彦　事務局長：篠原　英男

		ボランティア	リーダー	サブリーダー	安否確認世帯数
第1グループ	３・４丁目	３８名	十川　幸三	田中　稔	７７世帯
第2グループ	２・５丁目	３４名	野呂　良彦	小島　真人	８５世帯
第3グループ	６丁目	３８名	武居　晋亮	篠　康允	９５世帯

防災ボランティアグループのメンバーは随時お申し込み受け付けます

安否確認訓練報告

6月8日（土）午前9時から、防災ボランティアとしては第5回目の安否確認訓練を行った。

第1グループ24名、第2グループ20名、第3グループ16名のボランティアが参加しました。事前に配布された名簿に従い、ボランティアの皆さんが安否確認希望者のお宅の安否確認を行った後、第1グループは釜利谷西小学校、第2、第3グループは自治会館に集合し、確認結果を集計しました。安否の確認が出来なかったお宅は、3人が1組となって、第2次の安否確認を行い、登録された全部のお宅の安否確認を行いました。

安否確認作業終了後、ご参加の皆さんで、今回の訓練の反省、トランシーバーの使用訓練などを行いました。

次回は9月に、自治会防災部と共同の安否確認・防災訓練を予定しています。

安否確認訓練に参加して

田崎　幸雄

9時30分になった。「頑張って!」の声に背中を押され家を出る。今日ばかりは少し真剣な顔つきだ、と自分自身でそう思う。今日は、防災ＶＧ・安否確認訓練に私は初めて参加するのだ。少し不安と緊張も感じるようだ。が、取り敢えず、打合せどおりやるだけだ。

私の担当する安否確認先は5軒。中には、85歳、95歳のご婦人も居られる。逸る気持ちを抑えながらチャイムを押す。押してしまえば、あとは、ことは、スムースに流れるものだ。

「安否確認訓練です。大丈夫ですか?問題ありませんか?」の問いに、

「問題ありません。ご苦労様です。有難うございます。」の答えにホッとする。

「お世話様です。本当に有難うございます。」

重ねて頂くご挨拶に、また改めて安心・安堵の気持ちを噛みしめる思いだ。言葉が繋がり、挨拶が繋がり、顔が繋がり、心が繋がり、安心が繋がる。そんな一瞬の間の安否確認訓練の参加ではあるが、何やら得心、満足感のある思いがする一瞬でもあるようだ。

グループリーダーが報告を待ち構えている自治会館・本部に急ぎ足で向かう道すがら、ふと、「5年先～10年先、明日はわが身!」の想いに駆られる。そして、「そうなのだ、これがボランティア!順番、順番。今、出来ることをする。ただ、それだけで良いのだ。」

日頃のご挨拶・向こう三軒両隣・ご近所の触れあい・助け合い・地域に住む人たちの連携連帯の気持ち・心構えが何より大事!との思いが強くなるばかりだ。

今回の訓練では、20日以上も前の5月15日付の安否確認訓練の案内にも拘わらず、地域のある処では、50％にも近い対象先で、家の前のタオル掛けをしていただけたのは驚きでもあり嬉しいことでした。不安でもあった訓練への私の初参加。結果は上々、気分も頗る上々でした。

最近の
ニュースから

南海トラフ巨大地震対策

「中央防災会議」の最終報告

5月29日の朝刊で、報じられたように、国の「中央防災会議・作業部会」から「南海トラフ巨大地震対策について」を発表されました。全文63頁からなる報告書で、その中身は従来から報じられて来た報告書から*根本的に変わったと言う印象*を受けました。内容は作業部会が国と地方自治体に対して広範囲にわたる災害対策を提言したものです。その中から我々の地域・住民の日常に直接関係する部分を下記に抜粋します。（小西義一）

ポイント

- **避難所に入る避難者に優先順位（トリアージ）**
- **軽微な被害者は自宅に留まるように誘導**
- **家庭備蓄を7日間以上確保　・地域で自ら助け合う**
- **地震の発生時期などを確度高く予測する事は困難**

第Ⅲ章　南海トラフ巨大地震対策の基本的方向

（3）項・超広域にわたる被害への対応

避難者が大量に発生し、通常想定している避難所だけでは大きく不足することが想定されることから避難所に入る避難者の『トリアージ』の方策。註：トリアージ＝優先順位（障害者・要介護者等）住宅の被災が軽微な被災者は在宅で留まるように誘導する方策等を検討する必要がある。

被災地域では、発災直後は特に行政からの支援の手が行き届かないことから、まず地域で自活するという備えが必要であり、食糧や飲料水、乾電池、携帯電話の充電器、カセットコンロ、携帯トイレ等の家庭備蓄を7日間以上確保するなどの細かい具体的な対応を推進する必要がある。さらに災害時要援護者の対応も避難者同士で助け合う等、地域で自ら対応することへの理解が必要である。

第Ⅳ章　具体的に実施すべき対策

1、事前防災

（2）項　建築物の耐震化等

① 住宅その他建築物の耐震化の促進
② 耐震化を促進するための環境整備
⑤ 家具等の固定、ガラスの飛散防止

（3）項　火災対策

② 初期消火対策

・・前文略、初期消火率向上を図るため、家庭用消火器・・ふろ水のため置き等の消火資機材の保有の促進や家具等の転倒防止対策・・中略・・消火活動を行う・・自主防災組織の充実等を図る必要が有る。

（8）項　防災教育・防災訓練の充実

・・前文略、自力脱出困難者の救出や負傷者の応急処置等の防災訓練や、過去の災害から得られた教訓を伝承する活動の支援を地域において定期的・継続的に実施する必要がある。

さらに学校教育において・・中略・・生徒等による地域防災活動への参画や学校と地域との連携を促進する必要がある。

（10）項の②地域防災力の向上

防災用資機材、飲食料・医薬品等が災害時に有効に利用できるよう、平常時から資機材の備蓄状況に関する情報の整理・更新を適切に実施する必要がある

2、災害発生時対応とそれへの備え

（4）項　消火活動等

① 消防力の充実、

地方公共団体は、平常時からの地域コミュニティーの再構築、自主防災組織の育成・充実、婦人防火クラブ・少年消防クラブの活性化、防災教育の充実、訓練の実施等を行うとともに・・中略・・初期消防力の充実・向上を図る必要がある。

7日間の備蓄（NHKあさいち）

第Ⅴ章　今後検討すべき主な課題

地震の規模や発生時期の予測は不確実性を伴い、・・中略・・地震の発生時期等を確度高く予測することは、一般的に困難である。

南海トラフ沿いの何れの領域で地震が発生するか、あるいは複数の領域で同時に発生するかなど、発生する地震の領域規模の予測は困難である。

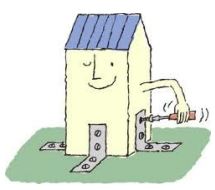
本報告書に対する私見

地震予知は現段階では困難（不可能？）であると認めています。一方で今まで国は東海地震は、明日起きてもおかしくないと言い続けて来ました。また最近の地球の地殻の動きによる大地震が世界的に増えているのも事実です。大地震に対して

！！不断の注意と心構え！！

が必要ではないかと思います。

「南海トラフ地震」のような広域かつ甚大な避難者が見込まれる中で行政の支援には限界がある、と言うことは、皆さんの自助・共助が唯一の手段ですと言うことです。



防災ボランティアの今後の活動予定

- 自治会主催　秋の防災訓練
  9月28日開催予定　　地区長・班長と連携した安否確認訓練
- 横浜市から配布された「我が家の地震対策」（下図）の説明会；（防災部共催）
  10月11日開催予定　講師は金沢区役所総務課 河野危機管理担当係長
- 防災施設見学会　詳細、未定
- 地域防災拠点訓練　12月開催予定
- 安否確認希望者アンケート実施
- 防災ボランティアグループ総会
  平成26年1月開催予定